

新型コロナ大波もたらす新変異ウイルスの不気味　すでに欧米やシンガポールで拡大中

2022年10月25日日刊ゲンダイ



どこまで変異は続くのか。オミクロン株の派生型ウイルスが次々と誕生し、欧米やアジアで勢力を伸ばしている。水際対策を大幅に緩和した日本国内への流入が懸念されている。

23日の全国の新規感染者数は3万815人。前週同曜日を約1400人上回った。感染状況は拡大傾向にあり、すでに第8波が始まっているとの見方が専門家の間でも出てきた。

水際緩和したばかりなのに（観光客らでにぎわう京都市内の観光地）

足元でジワジワと感染が広がる中、更なる脅威が海外で急増している新たな変異ウイルスだ。

欧米では「BA.5」から派生した「BQ.1」（俗称タイフーン）や「BQ.1.1」（同ケルベロス）などが拡大。欧州疾病予防管理センター（ECDC）は、これらの派生型が1カ月以内に主流になると危機感を強めている。

米疾病対策センター（CDC）によると、米国内では「BA.5」が依然として感染者の6割超を占めるものの、「BQ.1」「BQ.1.1」が15日から22日までの1週間でもともに3.6%増加。「BA.4」の派生型である「BA.4.6」が11～12%を占める。

シンガポールではオミクロン株の亜種のうち複数のウイルスが混ざった「XBB」（俗称グリフォン）が新興勢力だ。その割合は、今年9日までの1週間で感染者の5割超に上っている。

ヤバイのは、これらの変異ウイルスは、感染力が強い可能性があることだ。ドイツの国立がん研究センターの専門家によると、「BA.5」に比べ「BQ.1」と「BQ.1.1」は感染拡大スピードが12%、「XBB」は20%速いという。

BA.2系統の亜種が感染広げる恐れも

第7波で過去最多の感染者数を招いた「BA.5」よりも感染力が強いウイルスに主流が置き換わった場合、第8波が今まで以上の“大波”となる恐れがある。昭和大医学部客員教授の二木芳人氏（臨床感染症学）がこう言う。



再び検査に行列？

「米国でBA.4、BA.5の変異ウイルスだけでなく、BA.2の変異である『BA.2.75』『BA.2.75.2』が少しずつ増えているのも気になります。日本もBA.4、BA.5の対応ワクチン接種を始めましたが、BA.4やBA.5系統に有効だからこそ、かえってBA.2系統の亜種が間隙を縫って感染を広げないとも限りません。いずれにしても、水際対策を緩和した日本に、新たな変異ウイルスが流入する可能性は高い。政府はその前提に立

って感染拡大の予防策を講じる必要があります」すでに第8波が襲来している。今年の冬も変異ウイルスに悩まされることになるのか。